

# 青少年むらやま

第40号  
2023年  
令和5年2月20日

## 提言



寒河江市青少年市民会議 会長 菊地 元宏

### 地域活動の再開に向けて

山形県青少年育成県民会議においては、「大人が変われば子どもも変わる」「いじめ非行をなくそう」「家庭の日」を表題・看板として、長年活動を行って参りました。

これまで、学校・家庭・地域の連携が大切であると言われてきましたが、核家族化の進展により、社会と地域間の希薄化が一層進んで利己主義の方々が多くなり、自分勝手な考えや行動を「自由」と考え、また、他人に迷惑さえ掛けなければよいと考えている方々が年々多くなって来ているのではないかと危惧しております。

思うに、相手の自由な立場を認め、相手に対する思いやりがあるからこそ「自由な立場」が成り立つのではないのでしょうか。相手の立場、考え方を認めるからこそ自分の主張を認めてもらえることになるのではないのでしょうか。つまり相手を思いやること、認め合う事、譲り合うことが、自由の本当の意味ではないのでしょうか。地域の人々、家庭内の親子・夫婦の間が希薄化し、家庭内のいじめやDVの問題も叫ばれる今、「朝夕の挨拶」「お世話様」「ありがとう」の感謝の言葉、名前を呼ばれたら、親子・

夫婦の間でも「はい」と返事を返すことが、ますます重要になってきているのではないかと感じております。

コロナウイルスの感染が流行する前ですが、地域の工業団地を企業訪問して、青少年育成の取組に対する協力をお願いしたいと伺ったことがあります。その時ある会社の役員の方から、子ども達に対する挨拶や声かけ運動に協力したいと思っても、子ども達は「知らないおじさん、おばさんに声を掛けられたら、急いで逃げなさい。早く先生やお巡りさん、両親に助けを求めなさいと教えられている」という話になり、地域での挨拶・声かけ活動がやりにくくなっているのではないかと言われ、自分の家や会社の前だけでもよいから、なんとか朝夕の挨拶をしていただけないかとお願いしたことがありました。

また、「いじめ非行をなくそう」運動では、「私たちの会社は、子ども達や青少年の方々と直接関係がないので協力するのは難しい」と言われたこともありましたが、その時は、青年とは35才までの方のことを指すことを説明し、会社の中でもいじめや

閉じこもりで会社、職場に出て来られなくなったたり、途中で退職してしまったりする社員もあるのではないかと尋ねると、「実は会社の中でもそのことに頭を悩ませ、苦勞しております」と話してくれました。そして青少年市民会議の活動をご理解いただき、協力を約束してくれた会社役員の方々もありました。

特にここ数年は、コロナウイルスにより、子ども会・育成会・各種団体など地域での活動や学校での活動が制限され、地域の人々、身近な人々とのふれ合いがますます少なくなり、一層活動がしづらくなって来しております。しかし、本年度寒河江市では、『寒河江市青少年市民会議』を三年ぶりに開催し、感染症対策を十分行った上で、子ども会や地域での活動を、できることから再開していこうと確認したところです。今後も、皆様からのご理解とご協力をよりよくお願い申し上げます。



8月31日に行った「いじめ・非行をなくそうやまがた県民運動標語」の選定会議

## 天童市 天童市青少年健全育成の 市民集会を開催

天童市長が会長を務める天童市青少年健全育成市民会議が青少年育成各種団体や市民が一丸となって、広く青少年の健全育成活動への参加を呼びかけるため、令和4年7月16日(土)に市立天童中部公民館において「天童市青少年健全育成市民集会」を開催しました。



集会では、これまで青少年健全育成にご尽力された3名と一団体に感謝状を贈呈。市立第三中学校生徒徒会が「人との繋がりを大切に、居心地の良い学校を目指して」をテーマに、中学校で行っているいじめ撲滅活動について取組発表を行いました。その後、青少年の健全育成活動の輪を広げる集会宣言が行われ、引き続き、天童警察署生活安全課少年補導専門官の田中恵美氏に「少年非行及び被害の概況について」と題し講演していただきました。今日までの少年非行の変遷やインターネットを介した犯罪などについて説明があり、特に薬物問題はすぐ身近に迫ってきていることを教えていただき、盛会のうちに終了しました。

同日、会場にて天童市青少年育成推進員協議会では、「いじめ・非行をなくそう」や「まがた県民運動の一つとして募集している「いじめ防止」標語入り」のポケットティッシュを配り、集会参加者に青少年の健全育成に対する理解と協力を呼びかけました。

## 中山町 中山町青少年育成 町民会議の活動

令和4年6月12日(日)に、中山町青少年育成町民会議と青少年育成推進員が中心となって高取山ハイキングコースの整備を実施しました。この事業は青少年の登山の安全確保を趣旨として毎年恒例となっています。

高取山は『やまがた百名山』に登録されており、登山道は全部で3コースあり、いずれも初心者コースであることから一年を通して登山者が訪れ、町内の青少年たちも毎年のように登山を楽しんでおり、地元からはとても愛されている山です。

今回ハイキングコースの整備を実施するにあたり、「コロナ禍においてアウトドアの人気の高まり登山客が急増している」との情報を得て、例年行っている草刈りに加え、案内看板の新設や劣化したものの修繕など、いつもよりも大規模な実施となりました。本活動は、コロナ禍だからこそ取り組めたものであり、結果よりよい活動となりました。

ほかにも、「有害図書調査」や「夜間巡回指導」、「あいさつ運動」など、青少年の健全育成に資する活動は様々ありますが、これを機会に事業の見直しや、時代に沿ったやり方の模索など、組織として検討を続けていきたいと考えております。



## 大江町 ぶくちゃんイルミネーション プロジェクト第2弾

大江町の中学生で組織するボランティアサークル「夢憧布(ポケット)」のメンバー23名が10月23日に大江町中央公民館で「ぶくちゃんイルミネーション」の点灯式を行いました。

当日に向け、ぶくらすサポーター(青少年育成推進員)の協力のもとイルミネーションの構想・デザインから制作まで創意工夫を重ね、お互いにアイデアを出し合い完成しました。



大江町中央公民館の愛称「ぶくらす」のイメージキャラクター「ぶくちゃん」がハロウィンで仮装した可愛らしいデザインとなり、元氣溢れるメンバーが制作したイルミネーションは、公民館に訪れる人を元気にしてくれるだけでなく、大江町内に住む人々にも明るい話題を提供してくれました。また、SNSによる情報発信にも力を入れ、中学生が自ら主体的に活動する様子や制作したものを町内外へと発信していくことで地域の活性化につながる貴重な機会となりました。

青少年ボランティアサークル夢憧布での活動は学校生活の中だけでは出来ない経験や人との出会いにより視野を広げ、思いやりの心や規範意識を育てるきっかけにもなります。今後も地域の方々のサポートをいただきながら活動の幅を広げていきたいと思っております。

尾花沢市

未来(子ども)を地域で育む

尾花沢市青少年市民会議では、昨年11月20日(日)に「未来(子ども)を地域で育む」をスローガンに青少年健全育成市民集會を開催し72名の方より参加いただきました。

会では青少年市民会議会長として青少年健全育成の発展に寄与された方や団体への表彰を行った後、講演を拝聴しました。

集會では、新型コロナウイルス感染症が終息しない中で、学校生活や日常生活などで子ども達に大きな影響がでていることや、地域などの繋がりにも影響がでてきている中だからこそ、大人達が地域で協力しながら青少年の生きる力を育んでいくため、挑戦し頑張る必要があるということを宣言しました。

講演では、近年はデジタル化が急速に発展し、青少年が犠牲になる例も後を絶たなく、地域で子ども達を守るためには、デジタルによる危険をもっと知っておくことが重要と思ひ、山形県警察本部の専門官をお招きし、「子どもを犯罪から守るために」と題して、青少年におけるモバイル現状やSNSの危険性についてなど参考になる貴重なお話をいただきました。

今後活動を通し、地域を愛し、人々にやさしい心を育める青少年育成を目指し、地域に根ざした活動に取り組んでいきたいと思ひます。



推進員部会研修報告

10月2日(日)、上山市三友エンジニア体育文化センターを会場に、50名の参加者を得て推進員部会研修会を開催しました。開会行事では、伊藤康則会長に続き、開催地上山市の横戸隆教育長様よりご挨拶をいただきました。研修では、山形市立高瀬小学校コミュニティ・スクールで地域学校協働活動推進委員を務める小林正次先生を講師にお迎えし、『青少年育成とコミュニティ・スクール』と題して日頃の活動についてご講演いただきました。その後、3班に分かれグループ討議を行いました。

◇講演より

コミュニティ・スクールのキーワード「学校を核とした地域づくり」達成に向け、学校と協働し地域全体で子どもを育て、活力あるコミュニティ形成を進める高瀬小の実践についてお話しいただきました。

はじめに、「高瀬の魅力を発信しよう」をテーマに、6年生総合的な学習の時間や4年生社会科で学んだ成果をまとめたパンフレット制作について、昨年1月山形放送「やまがた市政の目」で放送された番組を交え紹介いただきました。また、主任児童委員が支援していた読み聞かせ活動が、その後2年にわたり学校運営協議会と連携する中で、子育てサロンや登校の見守り、地域の大人が先生役を務める6年生家庭科の授業などに発展した事例について紹介いただきました。最後に、今年度の児童会目標「深めよう高瀬っ子の絆(あいさつ・元気・思いやり)」は、家庭・地域でも目指すべき「子どもの姿」との視点から、地域と家庭が子ども達を「認め褒める」ことを通し、目標達成に向け協働している取組についてお話しいただきました。



◇グループ討議より  
多くの地域でコミュニティ・スクールが始動しており、推進員が参画する実態があるため、大変参考になったとの意見が多く出されました。反面、まだその位置付けが十分理解されていない、地域に浸透させることが必要との意見もありました。また、学校・地域の規模や特性により差があることや、運営協議会委員の選定やコーディネーターの人材確保が重要という話題になりました。その上で、まずは日頃の挨拶などやれることから積極的に行動してみること、公民館はじめ既存の組織と連携を図ることが大切など、前向きな討議となりました。後半では、参加者が推進員として日頃活動していること、そこで生じる悩みや疑問について情報交換を行い、有意義な研修会としていただきました。

## 所感



東根市青少年育成推進委員会  
会長 片桐 弘雅

東根市青少年育成推進委員会には、「地域活動部」「調査研究部」「啓発広報部」「研修部」と4つの専門部が存在しており、各専門部が中心となって毎年恒例の事業を、企画・検討・運営しています。

ここ2〜3年、コロナ禍により事業を中止したり規模を縮小しながら活動を行ってきておりませんが、東根市青少年育成市民会議の一大事業に、調査研究部が中心となって企画・検討している「東根市青少年育成市民大会／青少年健全育成を考える市民のつどい」があります。本大会は二部構成となっており、第一部が、青少年健全育成に尽くされたり善行為をされた方々を顕彰する「明るい東根善行表彰」、第二部に青少年健全育成活動を演題にした講演会を、外部講師をお招きして開催しています。

私も長年本大会の運営に携わってきておりますが、毎回、参加人数が少ないと感じております。大会開催の周知は、市内各小中学校、公民館へのパンフレットとチケットの配布、市内要所への大判ポスター掲示、市報や公民館だよりへの掲載など試行錯誤を重ねておりますが、毎回集客の難しさを痛感しております。

講演の内容は、講師の経験や実績、研究の結果を基にしたものであり、実のためになる内容が多く、時には笑いや感動を織り交ぜながらの話は、様々な気づかされることがあります。私は自分の子育てと講演内容に照らし合わせて振り返ってみることが多かったですが、決して悪かったという印象はなかったものの、講演内容の子育てに関する手法や考え方を、実際の自分自身の子育てのさなかに習得できてくれれば良かったと感じることが多くありました。

青少年を取り巻く環境は、親世代の方々が子供だった時代に対し大きく変化してきており、親自身

が受けた子育て方法が通じないケースも多いのではないかと感じます。このような講演会の話をも、まさに子育て真っ最中の保護者に聞いて頂き、手法やノウハウ、考え方を蓄積して頂ければと考えます。それが、子供たちの性格や個性に合った子育てに反映され、健全育成につながっていただければと期待するところです。

今後も青少年の健全育成の手法や考え方を、講演会開催という機会を通じて、多くの保護者や教職員の方々に認識して頂けるよう地道に活動を続けていきたいと思っております。

### 令和4年度村山地区青少年育成連絡協議会 「青少年育成運動支援事業」表彰

#### 大江町ボランティアサークル「夢憧布(ポケット)」並びに「ぶくらすサポーター」

「夢憧布」の子ども達23名と「ぶくらすサポーター」の大人6名が協力し合いながら、継続的にボランティア活動を展開している。活動を通して子ども達のやりがいと意欲を高めるプロセスが確立されており、今後の活動の広がりや深まりが期待される。

#### 令和4年度

#### 山形県青少年育成県民会議受賞者

##### ◆青少年育成成功労者表彰

菅浦 淳さん(寒河江市)  
鈴木 政明さん(中山町)  
松田 正さん(河北町)

##### ◆優秀標語作者表彰

三浦 奈結さん(尾花沢市立宮沢小学校4年)

#### 令和4年度 村山地区 優秀標語

いじめめ・非行をなくそう  
やまがた県民運動

#### 優秀

#### 次点

いじめって「見る」「する」「される」どれもいや  
尾花沢市立宮沢小学校4年 三浦 奈結さん  
目と目合う マスクごしても 笑顔であいさつ  
天童市立成生小学校4年 奥山 楓雅さん  
こころのきずに ばんそうこうは はれないね  
大江町立左沢小学校1年 工藤 結愛さん

防ごうよ いじめウイルス 即ワクチン  
山形大学附属中学校2年 永井 樹さん

ちょっとまって！ 送信ボタンに 責任を  
大江町立大江中学校2年 橋本 夏実さん

救われた 次は私が 救う人  
大石田町立大石田中学校3年 齋藤 敦生さん

気づいてね 話せない子の 心の声  
山形県立桶岡特別支援学校小2年 堀江 芽衣さん

### 編集後記

◆様々な制限のあった青少年健全育成の活動ですが、ウィズコロナへの転換を図りながら、着実に活動再開につながっている手ごたえを感じます。先行きの不透明感はなかなか払拭できない状況下ですが、地区内のコミュニケーションを活性化させ、よりよい活動を重ねたいと思つた(口)の頃です。

◆この度お忙しい中にもかかわらず、「ご寄稿いただきました寒河江市青少年育成市民会議会長 菊地元宏様、東根市青少年育成推進委員会会長 片桐弘雅様に、衷心よりお礼申し上げます。また、活動をご紹介いただいた4市町の皆様に感謝申し上げます。